

## “地震との共生をめざして” ひらつか防災まちづくりの会

期間：2007年 7月24日(火)～9月8日(土)／会場：常設展示室 2階情報コーナー

私たちの住む平塚は、相模トラフの沈み込み帯の真上にあり、東海地震の警戒区域にも入り、大正関東大震災では全壊家屋30%以上(推定震度7)と大きな被害を受けた「地震との共生」を求められているまちです。ひらつか防災まちづくりの会では、平塚で、『自分と自分の家族をどのように守っていくのか?』という視線で、これまでの地域の防災とは少し異なった考え方で活動を始めました。小学校に通う子供をもつ母親たちは子どもの通学路の点検を、同じ中学校の同級生同士の子どもをもつ母親たちは被災体験者によるミニ集会を、昼間平塚を留守にするサラリーマンたちは自宅の家具の転倒防止を、といった身近にできるものからです。この活動は、それから、小学校やPTAを巻き込んだ防災ワークショップの開催、地域住民と作る防災かるたの作成、さまざまなNPOと協働で行政も巻き込んだ耐震補強モデル事業の推進、地域を見直すまち歩きの実施へと展開してきました。



一方、活動を通じてさまざまな方々と出会い、その方々から地震の「怖さ」、地震被害の「悲惨さ」を学ぶとともに、その地震のもたらす「恵み」を知り、その怖さと恵みを丸ごと学んでいく地震火山こどもスクールを始め、「地震との共生」とは何かを考え、活動を起こしています。



活動は、自分たちだけではじめ、できなければ自分たちのもつ知り合いの輪をいかして行い、さらにできなければ、自分の住む自治会、平塚市、神奈川県などの行政を巻き込みながら多種多様な活動へと発展しています。活動の中心となっているのは、「家族を守りたい」「まちを守りたい」という思いを共有する「普通の主婦」「普通のサラリーマン」「普通のおじさん、おばさん」「普通のお兄さん、お姉さん」です。展示では、「普通の住民」が始めた「市民活動」としての防災まちづくり活動を紹介します。

写真：(上)防災ミニ集会 左)地震防災こどもスクール